

せいけん
詩集

第六十五篇

作：近藤せいけん

「肩車」

散歩の途中 歩き疲れた幼子に

せがまれて 肩車

「わあ 高い 高い らくちん らくちん」

はしゃぎながら 田んぼ路

上空を銀色に輝く 飛行機

幼子が指を指しながら

「あの飛行機 ずいぶん 高い所を飛んでいるね」

「大山さまより ずっと高い」

「音も しないし 小さく見える」

「そうだね どこへ 行くんだらうね」

手を 担ぎての額にあて

股でぎゅうと 首を絞めている

「少し 走ってよ」

「わあ わあ もっと走ってよ」

幼子の歓声が あがる

長い影が伸びる 田んぼ路